

<予告>
瀬戸内海の生物多様性保全のための第5回三学会合同シンポジウム
in 名古屋
「上関(かみのせき):瀬戸内海の豊かさが残る最後の場所」

瀬戸内海は、日本の沿岸海域の中でひとときわ高い生物生産力と生物多様性を有する内湾でしたが、その生物学的な豊かさは、近年の沿岸開発によって大きく損なわれてしまいました。その中で周防灘の上関周辺は、本来の豊かさがよく残されている稀な場所です。しかし、今ここに、原子力発電所の建設が計画されています。その環境アセスメントはきわめて問題の多いもので、これに対して、生物学研究者の組織である3つの学会（日本生態学会、日本ベントス学会、日本鳥学会）は、生物多様性保全の視点から、もっと慎重な環境アセスメントを求める要望書を事業者に提出しています（合計12件）。しかし、これらの要望書は、全く無視され、埋め立て工事が着工されようとしています。

このままでは、今までかろうじて残されてきた瀬戸内海本来の豊かさが完全に失われてしまうかもしれません。そのような取り返しのつかない損失を防ぐために、学会の「要望書」の内容を多くの人に知っていただきたいと考え、一般公開のシンポジウムを企画しました。

開催日： 2010年9月23日（木、秋分の日）午後1時30分～4時30分

会場： 南山大学名古屋キャンパスB棟B21またはB22教室（予定）（名古屋市昭和区山里町18, http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/navi/nagoya_main.html）。地下鉄名城線「名古屋大学」駅1番出口より徒歩約8分、山手通門をお入り下さい。周辺は全面駐車禁止となっておりますので、自家用車での参加はご遠慮下さい。

参加費： 500円（資料代）

主催（予定）： 日本生態学会 自然保護専門委員会
日本鳥学会 鳥類保護委員会
日本ベントス学会 自然環境保全委員会

後援（予定）： 日本魚類学会 自然保護委員会ほか

事務局、問い合わせ先：

日本生態学会上関原子力発電所問題要望書アフターケア委員会

代表：安溪遊地（Tel: 083-928-5496、e-mail: ankeiyuji@gmail.com）

庶務：佐藤正典（Tel: 099-285-8169、e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp）

プログラム：

はじめに「学会からの要望書提出の経緯」

佐藤正典（鹿児島大学）

講演「周防灘に残されている瀬戸内海の内原風景」

加藤真（京都大学）

学会からの要望書の説明

安溪遊地（日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長）

コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」国会議員（調整中）

そのほかコメント 2-3 題を予定

質疑応答